

令和4年度 第2回認知症初期集中支援チーム検討委員会（議事録）

- 1 開催日 令和5年2月16日（木） 午後2時30分～3時
- 2 開催場所 射水市役所大島分庁舎 大会議室
- 3 出席者
〈委員〉 矢野委員、野澤委員、島多委員、稲田委員、永野委員、毛利委員、
櫻田委員、森委員、阿部委員、松浦委員、新谷委員
〈ワーキング部会長〉 谷口部会長（在宅支援ワーキング部会）
〈事務局〉 福祉保健部 小見部長、轟次長、介護保険課 田中課長補佐、
保険年金課 明課長、 射水市民病院 柏嶋看護副部長、
地域福祉課 山口課長、長谷川課長補佐、大久保主査、
益塚主査、島倉主任、荒木社会福祉士
- 4 欠席者 山本委員
- 5 議題（事務局説明項目）
 - （1）令和4年度認知症対応の実施状況 （資料1）
 - （2）令和4年度拡充・刷新事業の経過報告 （資料2）

6 質疑応答内容

（1）令和4年度認知症対応の実施状況について

会長：1ページの1（3）認知症初期集中支援チームでの対応状況が、令和2年度7件、3年度5件、4年度1件と少なくなっている理由について説明してもらいたい。

事務局：理由としては、認知症共有ツールや多職種連携票などを使用し、対応が困難な認知症ケースも医療機関と密に連携ができていること、また多職種連携支援システムを活用して認知症の方の支援もできていること、受診に抵抗のある方も認知機能検診という媒体を通すことで医療機関への敷居が低くなっていることで、周囲のフォローができていたため、認知症初期集中支援チームでかかわる前に対応できているケースが増えてきていると捉えている。認知症初期集中支援チームは、医師が訪問できるのが特徴であるので、特徴を生かして先生方と相談しながらチームとして対応していきたい。

会長：共有ツールを生かしながら早い段階で介入している効果が出ており、集中支援チームでの対応が少なくなってきたということである。

委員：歯科医療で、外来にMC Iの疑いのある患者が増えてきている。40代から診た患者が80代になり経過を追ってきて、少し異変を感じることもある。作った義歯を忘れる、予約を忘れて来ない、義歯の調整時間の予約を取っているのに義歯を持ってこない、鞆を忘れて帰るなど様々なケースがある。自宅に電話すると、「最近様子がおかしい。市民病院に行くと行って出掛けたが別の病院に行っている」と奥さんから聞くこともある。このようなケースの場合、患者さんやご家族に、物忘れ外来や地域包括支援センターに相談に行くように案内はするが、実際に行かれるかは分からない。ご家族の了解を得て、居住地の地域包括支援センターに連絡し、関わりを持ってもらえばよいか。歯科医として具体的にどのような動きをしたらよいか教えてもらいたい。今年度は、相談事例が259件のうち対応困難な事例は35件で、大半の220件が軽い状態であり、相談に至る前段階の穏やかな状態での対応や今後どうしたらよいかという相談だと思う。外来で接している方を認知症の支援の方向にどのように案内したらよいか道筋を教えてもらえれば対応できると思う。MC Iの患者も初期であれば5割くらいは認知症に進行しないというデータも出ている。脳トレや地域とのかかわりで進行の防止につながれると感じている。

事務局：MC Iの段階で早期に対応したいということで、認知機能検診や脳いきいき講座など様々な事業を展開している。先生がかかわられる中で、MC Iと思われる方がいれば、地域福祉課か地域包括支援センターに是非つないでもらいたい。こちらから連絡してもよいという了解が得られれば、連絡して対応させていただくことにしたいので、ご協力をお願いしたい。

会長：MC Iの方を幅広くピックアップし、支援につなげていってほしい。

(2) 令和4年度拡充・刷新事業の経過報告

委員：認知症は、頭で理解していてもなりたくない病気と思われている。なぜそう思うかといったら、認知症が人間の人格を全てダメにするイメージがあるからで、認知症になっても人格もなくなるわけではなく感情もしっかりしている。物忘れや記憶障害、脳の高次機能障害はあるが、脳の機能全てがダメになったわけではないのでイメージが重要である。ご主人が認知症になった場合、奥さんは対応をしておられる。認知症は環境も影響するが人の対応が一番大切である。問題は、奥さんが認知症にな

ってご主人と二人の生活の場合である。ご主人が、常にイライラし声を荒らげ、説明しても、以前は奥さんがしていたことが全て出来なくなったことを受け入れられない状態である。奥さんは萎縮することで認知機能の低下が進む。奥さんはデイサービスの利用につなげるが、ご主人に分かってもらうのがかなり難しい状態である。認知症はありふれた病気であり、誰もがなる病気ということを繰り返し伝えることが大事になる。MCIの場合も、アミロイドβがかなり蓄積している中で、5年経過を見ると60%以上は認知症になるが、ならない人もいる。報告書によれば、その間、生活習慣病を治療し、社会的な交流や脳トレなど色々なことをしている人の方が、認知症にならないし、なっても軽度で済むことを考えると今の取組が大事ということになる。反省すべきは、認知症の薬を出すだけで終わることが悪いパターンである。ご家族に認知症とはどういうものか対応の仕方を伝え、悩みに対して家族をサポートすることが大切ではないかと思っている。そうすると医師だけではだめで、他の人とのかかわりを支えることが大事になる。薬が管理できなくなっていると少し問題があると捉えている。その時点で認知症ということはないが、認知症はその人にいかに対応するかをしっかりとできているかが大切で、BPSD（行動心理症状）が出るかどうかは家族や周りの人との関係性によるものである。家族も困っている状態なので、家族のイライラした感情がうまくできる状態に持っていけるようになれば違ってくる。これからも取組を色々やってほしいし、関係する私たちチームも色々やっていくことがあると思っている。

会長：2025年には4人に1人が認知症になり、750万人になると予測されている。ある先生によれば認知症自体、その人の個性と思って対応しなさいという話もある。その人らしさ、個性だと思って対応できるような社会を作っていくように協力していただければと思う。

令和4年度 第2回射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会 次第

日時 令和5年2月16日(木)

午後2時30分～3時

会場 射水市役所大島分庁舎

3階大会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 令和4年度認知症対応の状況

資料1

(2) 令和4年度 拡充・刷新事業の経過報告

資料2

3 閉 会

1 認知症に関する相談対応の状況

(1) 認知症に関する住民相談

	R2年度		R3年度		R4年度(R4.12月末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
新湊西包括	50	568	49	379	39	389
新湊東包括	47	372	45	332	57	355
小杉・下包括	83	345	97	361	64	287
小杉南包括	45	479	52	377	25	325
大門・大島包括	89	335	91	307	74	306
計	314	2,099	334	1,756	259	1,662



住民相談の内容により、困難な事例は包括支援センターと市地域福祉課で支援方針を検討

(2) 困難事例等の検討

	R2年度		R3年度		R4年度(R4.12月末)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
対応件数	57	130	35	46	35	44



医療や介護につながらない者や中断している者、認知症の行動心理症状(BPSD)が顕著で対応に苦慮している者等は認知症初期集中支援チームでの対応を検討

(3) 認知症初期集中支援チーム対応状況

	R2年度	R3年度	R4年度(R4.12月末)
対応件数	7	5	1

2 情報共有ツールを使用した多職種連携

(1) 認知症共有ツール・多職種連携票の使用

	R2年度	R3年度	R4年度(R4.12月末)
使用件数	39	34	40

相談機関(地域包括支援センター)より、医療機関へ情報共有ツール(認知症情報共有ツール・多職種連携票等)を使用し、認知症の人が医療機関を受診する際に、生活状況や困り事を相談する。医療機関からは、相談機関へ在宅生活における助言を行う。

(2) 射水市多職種連携支援システム(ICT:情報通信技術)を活用した連携

	R2年度	R3年度	R4年度(R4.12月末)
認知症の人の連携件数	10	9	12

射水市多職種連携支援システム(ICT)を活用し、医療機関及び介護保険サービス事業所等が、認知症の人や家族の生活状況や思い、支援状況の書き込みを行う。

緊密な連携により認知症の人や家族の思いに寄り添い、円滑な支援が可能となっている。

3 認知機能検診受診結果及び事後支援状況

(1) 認知機能検診受診結果

(人)

年度	検査内容	検査結果				小計	合計
R2 年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		136	174
		127		9			
	認知機能テスト・ MCIスクリーニング検査	異常なし	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	38	
		36	2	0	0		
R3 年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		26	58
		20		6			
	認知機能テスト・ MCIスクリーニング検査	異常なし	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	32	
		21	4	4	3		
R4 年度 (12月 末)	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		16	31
		9		7			
	認知機能テスト・ MCIスクリーニング検査プラス	異常なし	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	15	
		3	5	2	5		

認知機能テストの結果、MCIの疑いがある方へMCIスクリーニング検査（血液検査）を実施。

令和4年度より、MCIスクリーニング検査プラスへ変更。

令和4年度（12月末まで）MCIスクリーニング検査プラス有リスク者のカテゴリー別リスクレベルの内訳 (人)

カテゴリー リスクレベル	栄養群			脂質代謝群			炎症・免疫群			凝固線溶群		
	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意
MCIリスク低	3	2	0	4	1	0	0	5	0	4	1	0
MCリスク中	2	0	0	2	0	0	0	1	1	1	1	0
MCIリスク高	5	0	0	1	3	1	0	2	3	3	2	0
合計	10	2	0	7	4	1	0	8	4	8	4	0

(2) 地域包括支援センターによる事後支援

対象 ①認知症疑い ②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者

「(1) 認知機能検診受診結果」の内、網掛け部分  対象。

	R2年度	R3年度	R4年度(R4.12月末)
事後支援件数	47	38	14

内容 訪問・電話・来所により、受診状況の確認、生活上の困り事がないかを聞き取り、生活支援・助言、受診調整、要介護認定等のケアマネジメントを行う。

効果 認知症・MCIが疑われる段階からの専門職による早期介入により、適切な診断、継続的な受診、適切な介護サービスへの結び付けが可能となっている。

また、受診者や家族にとっては相談先が明確となり、円滑に相談をすることができる。

4 認知症初期集中支援チーム員全体会議の開催

	日時	方法・場所	出席者	内容
第1回	令和4年4月5日 (火)、4月8日、 (金)4月12(火) の3日間のうち30 分間	オンライン	チーム員 医師6名	MCIスクリーニング検査プラスについて
第2回	令和4年12月6日 (火)19時15分～ 20時30分	集合・射水 市役所 3階 304会議室	チーム員 医師6名、 認知症地域 支援推進員 5名	(1) 射水市認知症初期集中支援チーム・認知 機能検診実績について (2) 認知機能検診結果の運転免許更新への 利用の可否について (3) 認知症の人と家族の一体的支援事業「な ごもっと」について (4) 令和5年度射水市認知症初期集中支援 チーム研修会について

令和4年度 拡充・刷新事業の経過報告

1 認知症の人にやさしいお店登録制度

(1) 認知症の人にやさしいお店とは

認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の人にやさしいまちづくりに賛同していただいた事業所であり、特別な対応を依頼するのではなく、困っている方がおられたら、やさしい対応をしていただくなどの協力を依頼する。

(2) 登録状況 令和4年12月末現在:105件

登録事業所内訳

医師会・歯科医師会	2件	保険会社	2件
金融機関	14件	薬局	5件
交通機関	2件	郵便局	21件
小売店	21件	美容院	23件
スーパー・百貨店	4件	その他	11件

(3) 周知方法

広報いみず3月号、射水ケーブルテレビ2月、射水市ホームページにて紹介

2 認知症の人と家族が集う場「なごもっと」

(1) 事業の目的

認知症になっても安心して暮らし続けられるよう、認知症の人や家族が気軽に情報交換し、家族関係を見つめ関係性を再構築する場を開催する。また、地域包括支援センターの認知症地域支援推進員やささえ隊メイトと一緒に活動することで、地域とのつながりを持ち、気軽に相談できる関係づくりを行う。

(2) 実施状況

やささえ隊メイトや家族、実習生が参加者のやりたい事を後押しし、様々な活動を実施。

	月日		参加者(人)			小計	スタッフ(人)			小計	活動内容
			本人	家族	その他		包括	メイト	市		
1	5月26日	木	3	5	0	8	6	7	2	15	ハンドエステ
2	6月23日	木	6	5	1	12	6	10	2	18	人形劇・散歩(屋上)・炭坑節
3	7月28日	木	3	3	4	10	5	9	2	16	買い物(駄菓子屋・和菓子屋)・炭坑節
4	8月25日	木	2	2	4	8	5	5	2	12	臨床美術・紙芝居
5	9月22日	木	3	5	0	8	5	4	1	10	台湾体験
6	10月27日	木	2	3	0	5	4	5	2	11	トランプ・ムズムズ体操・散歩(屋上)
7	11月24日	木	3	3	0	6	7	3	1	11	ゲーム・サザエさん体操
8	12月22日	木	3	1	4	8	5	6	2	13	クリスマス会(ハンドベル7名参加)
9	1月26日	木	2	2	0	4	5	0	2	7	アロマセラピー
計			27	29	13	69	48	49	16	113	

(3) 周知方法

- ①射水市ホームページ、広報いみず5月号特集ページ掲載
- ②地域包括支援センターでの認知症に関する相談時にチラシの配布
- ③もの忘れ・認知症相談会でのチラシの配布
- ④世界アルツハイマー月間啓発イベント(図書館・ショッピングセンターでの展示)におけるチラシの配布
- ⑤認知症の人と家族の会、高岡市民病院認知症疾患医療センターへチラシの配布を依頼

3 認知症ささえ隊メイトの活動

(1) 認知症ささえ隊メイトとは

認知症サポーター養成講座を受講後、さらに認知症サポーターステップアップ講座を終了され、認知症の方とその家族に寄り添い、地域での認知症に関する活動に取り組んでおられる方であり、平成29年度から「ステップアップ講座」を開催し、令和4年12月現在165名の方が地域で活躍している。

(2) 活動内容

- ・地域包括支援センター圏域での認知症ささえ隊メイト交流会
- ・地域での100歳体操やサロンでのミニ講座の開催
- ・認知症の人と家族が集う場「なごもっと」への参加
- ・11月18日開催のステップアップ講座での活動紹介
- ・地域での声かけ・相談先の紹介等
- ・ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」での活動紹介

(3) 研修会

【日時】8月2日 13:30~15:00 53人参加

【場所】射水市役所 302・303・304 会議室

【内容】講義・演習

「認知症の人と家族への関わり方のヒント～地域のサポーターとしての傾聴～」

講師 公認心理師 豊田 晶子 氏

4 ひとつこと声かけ体験会

(1) 事業の目的

認知症の人と接する際に正しい知識や必要な配慮を理解することで、地域の見守り機能強化を図るとともに、認知症の人と家族を支え、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指す。

(2) 実施内容・時間

対象者の年齢構成、参加人数、開催場所等を考慮して、②はア～ウの中から選択できるものとし、①と②を合わせて約90分間とする。

- ① 「認知症の人に対する接し方について」の講義
 - ② ひとつこと声かけ体験会～安心して外歩きを楽しもう～(ア～ウのいずれかを選択)
 - ア 声かけ訓練(高齢者複数人用)・振り返り
 - イ 声かけ訓練(高齢者1人用)・警察への通報訓練・振り返り
 - ウ みまもりあいアプリで高齢者捜索・警察への通報訓練・声かけ訓練・振り返り
- ※イ・ウは射水警察署生活安全課より講師として参加・協力

(3) 実施状況

月日		委託包括名	実施場所	参加者・人数	実施パターン
1	8月31日	小杉・下	戸破コミュニティセンター	小杉東民生委員13人	イ
2	11月22日	新湊西	作道コミュニティセンター	作道地域住民32人 (高木・布目・鏡宮)	イ
3	12月10日	小杉南	中太閤山コミュニティセンター	南太閤山社会福祉協議会 32人 (ふくしサポーター、民生児童委員他)	イ
4	2月16日	小杉南	橋下条コミュニティセンター	橋下条地域住民、民生児童委員 他約30人	イ
5	2月25日	小杉南	金山コミュニティセンター	地域住民約30人	イ
6	3月14日	小杉南	太閤山ランド	従業員約30人	イ

(4) 周知方法

- ① 地域包括支援センター、射水市役所でのチラシの設置
- ② 広報いみずへの掲載
- ③ ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」での放送